

吉津のむかし話
梅の塚

吉津の津つノ前まえの三味さんまい（共同墓地）から小道を東にたどると、片山・宗吉地区へ行く道に出る。右手に三野津みのつヶ丘おか団地があり、すぐ南に山条山（吉津富士）がそびえ、左に浜ノ王子（高津神社）が見え、右手に南大坊*の松が見える。このあたりが浜ノ江すなわち最古の三野津の跡だという。

こうした海を埋め立てて、大新田を干拓したのであるが、この津ノ前から片山へ行く道路沿いに梅ノ塚というところがある。これは埋めヶ塚（土葬場）にゆかりがあったかも知れない。

昔、この底なしの泥田で働いていた梅という女が泥田に踏み込み、ずるずると沈んでいった。救いを求める声に、付近にいた人々が驚いて駆けつけ、彼女の髪をつかもうとしたが間に合わず、あれよあれよといううちに、泣きながら底なしの沼田に沈んでいった。

だから、そのあたりを今も梅ノ塚、特に彼女の死んだところは「梅ノ塚の泣き入り」といい、田植えの時、牛の腹まで埋まる泥田で、目印に笹を立ててあったというが、今は、探してもなかなかわかりにくい。

*南大坊……吉津片山にあり、法華寺（大坊）の末寺があった場所といわれている。



片山から浜の王子（高津神社）を撮影